

## 「知事とのわいわいミーティング」(平成20年8月27日実施)五所川原市会場の概要について

「知事とのわいわいミーティング」を8月27日(水)午後2時から、五所川原市太宰治記念館「斜陽館」で開催しました。当日の概要をお知らせします。

「知事とのわいわいミーティング」は、知事と県民の皆さんが、青森県の未来を創るために直接意見交換をする場です。五所川原市は今年度第2回目の開催となりました。

当日は、地域で活動されている6名の市民の方からご提言・ご提案がありました。その概要は次のとおりです。

---

### 三村知事あいさつ

久しぶりにこの斜陽館におじゃまさせていただきました。今年が太宰治生誕99年、来年が100年ということで、走れメロスマラソン等が企画されているわけですが、一人の大家作家を持ったことによって「まちおこし」にも繋がっていくのだと、あらためて太宰治のすごさを感じているところです。



現在、県民局を中心に、太宰が、ものを書くきっかけとなった、この斜陽館を含め、太宰を訪ねて歩く仕組みづくりをすすめています。

また、海外の方々から太宰のファンであるとの話を伺う機会が多く、最近では、ソウル便の関係で航空会社に行く機会があったのですが、その社長から太宰のコンテンツを活かさなければいけないとお話をいただいたりするなど、太宰は海外でも非常に有名であると実感しているところです。

さて、青森県には、いろいろな地域資源があり、何より大事な地域の人財がいます。そして、それぞれが故郷「あおもり」を愛しながら地域づくりをすすめてくれています。

本日は、地域でいろいろな元気を出してくれている皆様方との、「あおもり」の元気づくりを共にしていくアイデアの交換会の場であります。皆様方の日常の活動やアイデアなどをお聞かせいただき、有意義な意見交換会としたいと思います。

皆様方には、本当にお忙しいところ、ご参集くださり、心から感謝申し上げます。

五所川原市・平山市長あいさつ

三村知事をはじめ、ご参会の皆様には、平素から市政の推進にあたり大変お世話になり、心からお礼申し上げます。

さて、来年は、太宰治生誕100年、平成22年には新幹線新青森駅開業と節目にあたり、市としてもこの機会をとらえ、裾野の広い観光産業の発展に活かしていきたいと思っています。こういったことから、この斜陽館で、「観光資源を活かした明日の五所川原」というテーマで、知事と市民の皆様方が、直接意見交換を行うことは時機を得た良い機会であると思います。

現在、市では、ご紹介のあった走れメロスマラソンや記念フォーラムを計画しているところです。

本日の会合で、皆様の忌憚のないご意見を承りながら、今後も、この津軽、西北五地域の活性化につながる取り組みをしていきたいと思っています。

今後とも、市政運営に皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、それぞれのお立場で益々ご活躍されますよう祈念しましてあいさつとさせていただきます。

発言者1（男性・50歳代）

自らの地域は自らが守らなければいけないという思いと、やりたいことを形にしていこうという思いから「NPO法人かなぎ元気倶楽部」を立ち上げました。当地は、太宰と津軽三味線という、文学と音楽という根をもった資源に恵まれており、これを新幹線開業に向けた観光事業として地域に展開したいと考えています。

特に、現在、県民局とともに推進している奥津軽観光は、施設ありき、景色ありきというのではなく、私たち地域住民が地域を積極的に案内し、ふれあいを第一とした着地型の観光を目指しています。

現在、具体的に取り組んでいることとしては、太宰をナビゲーターとした奥津軽全域の紹介であり、関係機関と協力しながら、新しい津軽の旅を楽しめるようにこちらからプランを提供していますが、年々感触が良くなっていると感じています。

また、津軽三味線は、世界に誇れる津軽の民俗音楽であることから、私自身も積極的にアピールしていますが、県全体で盛り上げていただいていることにお礼を申し上げます。

今後も、地域にこだわった活動をしていきたいと思っています。

知事

自分たちで自分たちの地域を元気にしていくという取り組みが大事であると思います。県としても、地域の方々と一緒に現場で地域課題を解決していこうということで立ち上げたのが県民局です。その県民局が、地域と共に協議会をつくり地域目標に向かって取り組むなど、役に立っていると感じているところです。



いよいよ、太宰生誕100年、東北新幹線全線開業と共に101年ということで、改めて外に向けてどのように発信していくのかについて、皆様からお力添えいただいていることをうれしく思います。県としては、パンフレット作成、旅行商品の造成など具体の対策を行っているところです。

かなぎ元気倶楽部が、太宰をナビゲーターとして企画していきたいというアイデアは素晴らしいと感じます。私どもも、県立美術館のオープニングで県民参加型の劇として、太宰を採り上げさせていただきましたし、4月17日には「太宰治生誕100年記念事業連絡調整会議」を設置し、4月30日には地元である五所川原市が主体となり「太宰治生誕100年記念津軽地域観光振興協議会」が設置されました。このように、皆様方と連携して様々な取り組みをすすめています。

かなぎ元気倶楽部の現地での活動については、観光客の方々からも非常に評判が高いと伺っています。太宰生誕100年については、是非とも連携しながら進めていきたいと考えています。

また、先ほど津軽三味線についてお話がありましたが、県外でのトップセールスに行った際など、津軽三味線パワーというものが、青森県、津軽というものを理解していただくのに役立っております。

文学と音楽、この2つをうまく活用しながら、我々としても「地域おこし」を頑張っていきたいと思っています。

西北地域県民局長

今年は、あおもりツーリズム「奥津軽紀行」育成事業で、地域資源の洗い出しを行い、その中からモデル的なコースを試行するなどの取り組みをすすめています。

また、太宰生誕100年に向けて、市や各団体が様々な取り組みをすすめていますので、互いに情報共有や役割分担を図りながら、同じ方向に向かってすすんでいけるようにしていきたいと考えています。

西北地域県民局長

食と観光、焼物など、今まで異業種であったものを組み合わせることによって、相乗効果が生まれ、産業にも雇用にもつながると思います。地域資源の集積を意識しながら皆様とすすめていきたいと思っています。

観光局

太宰生誕100年は、新幹線開業の前年度にあたる事から、津軽を全面的に売り出していきたいと考えています。今年度は、パンフレットを制作しており9月には完成する予定となっています。これをもって、首都圏の旅行エージェントに働きかけていきたいと考えています。

また、県民局と協力しながら、ガイド育成マニュアルづくりをすすめていますが、かなり良いものとなっています。

生誕100年に向けて、企画展も計画しており、皆様と一緒に機運を盛り上げていきたいと考えています。

五所川原市長

生誕100年に向けて、斜陽館の通りの街灯を新しくすることなどを計画しています。商工会と相談しながら太宰にふさわしいものを設置したいと考えています。

発言者2（女性・50歳代）

当地域においては、魅力はあるがそれを出し切れていないと考えています。そのため、新幹線開業が間近に迫っているにもかかわらず、新しいホテル等が建設されていない状況となっているのではないのでしょうか。

観光は、今や「見る観光」から地域住民と同じような体験ができる「体験観光」に変わってきています。観光施設、観光に携わっている人だけが一生懸命になるのではなく、一般市民の普通の手わざ、得意わざを巻き込んで観光につなげていくことが大事だと思います。ただ、それを皆わかっている、誰が仕掛けるのかを考えると大変難しく、この人づくりの部分で行政の的確な手腕を発揮していただきたいと思っています。

観光客に対しては、ただ情報を伝えるだけでなく、地域みんなが観光ガイドになったつもりで接客していくことが大事ではないかと感じています。

知事

人づくりの大切さについてお話いただきましたが、自らが様々な情報を発信してくれていることを大変うれしく思います。



県では、タクシーやバスの運転手、ホテル関係者のホスピタリティー向上のための取り組みをすすめると共に、得意分野を伸ばしていこうということから、攻めの農林水産業、あおもりツーリズムなどの仕組みを作ってきました。

あおもりツーリズムは、すばらしい青森を知っていただく、来ていただくという取り組みであり、一つの象徴として南部町（旧名川町）に「達者村」を作りました。

地域の元気な人々が、それは面白い、ぜひやろうということです。一緒に楽しんで地域づくりをしていく中で、農家民泊の仕組みなどをどんどん増やしていき、それに同調する形で、農業技術が未来産業として大事とする企業が研修生を送り込んでくれるなど、大きな広がりを見せています。

おそらく、当地でも、元気な人々がいるので、仕組みを覚えていただきながら新しいムラづくりができるのではないかと、いよいよ当地でも機運が盛り上がってきたなと思います。

西北地域県民局

「達者村」は、南部町と県とで究極のグリーンツーリズム、日本一面白い村を目指してきた、取り組みが認められ、「第3回オーライ！ニッポン大賞」でのグランプリ（内閣総理大臣賞）など様々な賞をいただいています。

グリーンツーリズムはすぐには採算がとれるわけではないのですが、自分たちが楽しみながらすすめることで、求心力と、すごい広がりが出てきて、数年でそれなりの成果がでたものです。

知事

いろいろな年代の人が楽しんでくれており、滞在してくれた人はものすごい応援団になってくれています。一例としては、修学旅行で訪れた生徒さんが青森を気に入ってくれて、弘前大学の医学部に入る人がでてくるなど、非常に良い効果がでています。

自然の美しい当地であれば、農家民泊など同じことができると思います。

発言者3（男性・50歳代）

今年4月にNPO法人プロジェクト五所川原倶楽部とNPO法人かなぎ元気倶楽部とNPO法人津軽にやきものの産地をつくる会の三者で「奥津軽NPO協議会」を立ち上げ、この三者を中心として、奥津軽を国内外に売り込もうと活動をしています。

具体的な活動としては、今年度、県の助成金を採択していただき、国内外に向けたパンフレットを作成しているところです。地域の方々の生活を見据えて、津軽の明日のために、外貨を稼ぐことのできる観光を進めていくことが一番ではないかと思っています。

先日は、県民局に足がかりを作ってもらい、麻布十番納涼祭に参加させていただきました。個人的に金山焼と深いつながりがあることから、津軽弁で言いますと血が「じゃわめき」まして、金山焼の宣伝も含め奥津軽の物産販売をしてきたところです。

また、首都圏の旅行会社にも顔を出し、修学旅行の関係について伺ってきましたが、グリーンツーリズムや農家民泊は関東でも注目されていますが、残念ながら、高校生は海外や沖縄、中学生は京都や奈良が中心で、ほとんど東北には来ないという実態があるとのことでした。新幹線新青森駅開業は、それを変える起爆剤になるかも知れないといわれ、来年1月に東京ドームで行われる「ふるさと祭り」が転機であり、具体的にコースとしての売り込みが必要であると考えています。

また、旅行会社からは、知事のトップセールスは高く評価されており、また、青森県にはスターが多いので巻き込んで、メディアにアピールしてはどうかともいわれています。

グリーンツーリズムは、年間を通しては弱いと考えており、冬に雪かきをしてもらうなどホワイトツーリズムとしてきちんとしたものに造成していけないかと思っています。

最近、首都圏に営業して思うのが、津軽は、四季がはっきりしていて、夏は過ごしやすいなど売り込める魅力があるということです。私は、帰ってくると「さっぱど」します。この津軽を、ねぶた期間は勿論ですが、それ以外の期間もうまく売り出していければと考えています。

知事

今、「さっぱど」と「じゃわめぐ」という発言がございました。この言葉は、奥津軽紀行を提供する上で大事な言葉であると思っています。津軽に来てよかった、安心したという「さっぱど」、太宰の故郷を地元の言葉でガイドしてもらい何かわくわくするという「じゃわめぐ」、この風土の中から生まれてきた言葉で観光客に津軽での感動や喜びを感じていただくことが大事ではないかと思えます。この仕組みを随所に盛り込みながら、ツアーを組んでいくことがリピーターの獲得につながっていくのではないかと考えています。

また、情報発信については、「まるごと情報発信チーム」が営業をして青森の美味しいものが本になったりしています。

あるいは、有名なカリスマシェフの熊谷喜八シェフが、県内を歩き、青森の四季を料理する本を出版してくれたり、西新橋のお店では金山焼の器がなければ料理が成り立たないとまで言ってくれるなど、我々の取組や、皆さんが発信してくれる取組に共感してくれる人が増えてきていると思っています。この外部からの青森応援団と一緒に増やしていくことが、私の仕事だと思っています。

そして、修学旅行への提言ありがとうございました。県としては、八戸までの部分のグリーンツーリズムについては、修学旅行ガイドブックや、2泊、3泊の地区ごとの旅行プランを旅行業者に配布したり、細かい仕掛けはしてきています。これを実らせるのが、新幹線新青森本格開業だと思っていますので、今いただいたアドバイス等をしっかり活かしていきたいと思っています。

また、雪かきツアーというアイデアもいただきました。ホワイトツーリズムの仕組みも何かに活かしていければと感じています。

「じゃわめいでさっぱど」する奥津軽と一緒に作っていったらと思います。

## 観光局

修学旅行についてですが、本県の修学旅行客は、北海道からが9割を占めており、首都圏からはほとんど訪れておらず、昨年から首都圏に売り込みをかけています。原油高騰などもあり、首都圏の目が海外、沖縄から他に向いてきているので、絶好の機会と考えています。

昨年、はじめて都立高校が来て、平川市尾上に農家民泊しました。非常に評判が良く、帰り際に今年の予約も入れていってくれました。また、宿泊した生徒が、ねぶた観光に家族と一緒にきたというケースもでてきています。

ツーリズムについては、様々なツーリズムが出てきています。雪を活用したホワイトツーリズムも地元のみなさんと共に取り組んでいきたいと考えています。

## 発言者4（女性・30歳代）

今回、あおもり検定を受けました。あらためて地域のことを勉強したのですが、物・人・食など素晴らしいものがこの地域にはあるということを実感しました。

「赤〜いりんご応援隊」では、今年、中小企業庁の「地域資源無限大全国展開プロジェクト」の助成金を受けて、10月までには、成果をお披露目できる状況になっており、五

所川原のいいものをどんどん発信していければと思っています。課題としては、五所川原の市民でも、赤～いりんごやそれを多数栽培している農業センターを知らないということなど、地元で周知されていない点などであり、農業センターで加工品の販売などを行うことも一つの考え方ではないかと思えます。

先ほどもお話がありましたが、最近の五所川原市内の観光施設連携については、良い評価を受けていると聞こえてきています。ただ、自分が観光するときには、その地域をインターネットで検索するのですが、他の地域においては、ネット上でその地域の観光全体の距離感やルートなどが分かり易いのに対して、五所川原の観光については、ネット上で距離感やルートが分かりづらいのではないかと感じています。

わかりやすい情報発信のためには、特にホームページを充実させていく必要があると思いますが、そのためには、片手間ではなく、このホームページで情報を発信し商売につなげていくという意気込みも必要だと思います。

また、個人的には、観光客が周遊できるちんちん電車みたいなもの、バスの一日フリーパスなどがあれば便利だと思います。

あと、太宰生誕100年に向けて事業をやりたいと考えている団体などもあると思うのですが、各団体の事業が重複しないようにすることが必要であり、それにより躊躇している団体もあると思うので、協議会などで、うまく連携していくことが大事だと思います。

## 知事

ホームページについてのご意見ですが、県では、現在、県のホームページを使いやすくわかりやすいようにしているところです。また、観光関係についてはアプリネットの改善なども含め、ユビキタス時代に対応した取り組みもすすめているところです。

観光周遊の話がありましたが、何とか列車とバスによる周遊の津軽フリーパスを作りましたし、青森市、三沢市でも取り組みが始まってきました。当地においても、有力なバス会社や津軽鉄道もありますので、うまく連携してくれればと思います。

太宰生誕100年に向けて、例えば、まんじゅうやせんべいなど、記念のお土産もあればいいのではないかと思います。

ご指摘のとおり、協議会の中でのネットワークについては、きちんとしていかなければいけないと思います。

## 観光局

太宰治生誕100年記念津軽地域観光振興協議会については、五所川原市に事務局を置

いています。現在、四十数団体が参加しており、参加自由となっておりますので、一緒にやりたい団体は、ぜひご参画いただければと思います。

五所川原市長

現在、太宰治生誕100年記念津軽地域観光振興協議会については、方向性を再度検討しているところで、県民局と協議しながら良い方向にもっていきたいと考えています。

西北地域県民局長

実は、新幹線をターゲットにした観光振興については、平成8年に商工会議所が事務局となり、地域の観光関係者が集まって、「津軽西北五地域観光振興プラン」というものを作成しています。非常に良いプランなのですが、そのままになっていましたので、商工会議所と相談しながら、再度立ち上げる方向で検討しています。

太宰治生誕100年記念津軽地域観光振興協議会も含め、五所川原市と十分協議しながら、実効性のある形になるようにすすめていきたいと思っています。

発言者5（男性・60歳代）

今日の話を知っていると、皆さん津軽の良さを感じている方で何とかしたいと、ただ、一箇所ではどうにもならないということを感じているのだと思いました。先ほど紹介がありましたように三者の協議会を立ち上げていますが、今から3年ほど前から、とりあえず一泊させようという取り組みをしてきました。そういう意味では、経営にダイレクトに反映されるので、民間の危機感行政の危機感より一歩早いわけです。新幹線開業に向けては、不十分でも磨かれたプランがなければいけないとのことから、やりながら改善していこうと考えています。

先ほどからホームページの話になっていますが、やれることをやっておかなければいけないということから、津軽金山焼のトップページに奥津軽という項目を持ってきています。ここでは、奥津軽における見る・食べる・体験などを選んでいただき、その項目にあったホームページを紹介する取り組みをしています。これまでのホームページでは、この地域を知らない観光客が歩けない、親切でないことを踏まえ、まったく奥津軽を知らない人が奥津軽を歩けるように工夫しています。ぜひ、金山焼のホームページを覗いてみてください。

それと、金山焼についてですが、一番新しい焼物の産地は約160年前の益子焼であり、以来、日本では産地ができておらず、それを今作ろうというものです。

国際交流、地域貢献としては、世界薪釜大会を2002年から開催して、今まで25カ国150人を招待していますが、彼らからは、薪釜の産地として金山は天国であると言われており、実は世界にもない恵まれた状況です。

人材育成としては、できるだけ地元の人材を育てたいと活動してきましたが、様々な理由でなかなか育たないという状況にありました。しかし、昨年ぐらいから状況に変化がでています。日本の焼物は、中国からの輸入が非常に増えており、産地の約8割が廃業し窮地に陥っています。そのため、各地にある指導所を卒業しても、陶芸家になれない人が増えており、金山では今年から研修制度をはじめ、現在、県外から5名が金山に修行にきているという状況が生まれています。

このように、金山は全国の陶芸家を養成する環境を持っているなど、青森県で果たしていく様々な役割があるのではないかと考えています。

#### 知事

県は、金山焼を売るといふことの仕組みづくりのお手伝いをしてきました。

金山焼では、更に、日本国の伝統工芸である焼物で日本国の人材育成に取り組み、ここで修行した人材が各地に行くことにより、五所川原の金山焼で修行したということが大変な価値を持ち、金山焼が魂のよりどころになるというふうになれば情報発信の最たるものであると考えます。

そのことにより集まってくる人も増えるなど非常に大きな可能性を持っていると思います。金山焼における、新しい人材育成にご期待申し上げます。

青森県の果たすべき仕事は、地元の人材育成のみではなく、世界に向けての人材育成でもあります。西北、五所川原はいろいろな可能性を持っており、それをどのように切り開いていくのが課題なのだと感じます。ぜひ、県民局とも連携いただきながら取り組みをすすめていただければと思います。

#### 西北地域県民局長

「炎のフェスタ」についてですが、金山という千年の眠りから覚めた財産と観光と農林水産業を融合させて、立派に大会が成功できました。これからも継続し、もっと盛り上げていき、併せて、お土産などの売り上げを伸ばし、相乗効果として地域が元気になっていければいいなと思います。

発言者6（男性・60歳代）

皆さんの話にもありましたが、行政に携わっている時には、気がつかなかったことがあります。全く知らない土地でレンタカーを借りて観光を体験してみて、初めて気づいたことですが、目的地に到着できるのか非常に不安になりました。

これは、新幹線が新青森駅に開業され駅に来るまでは簡単ですが、そこから先の観光地などに行く際に不安になるということです。

そこで、ドライバーの視点に立った3点セットをやるべきであると考えます。

一つ目として、ガイドマップというのは、ドライバーの視点に立って、地理を全く知らない県外の人に作成させるということです。県内の人には予備知識があり完全なものがないと考えます。全く知らない人の視点で捉えると、ガソリンスタンドや休憩所があるかなど、様々な視点からガイドマップを作成することができると考えます。

二つ目として、全く知らない土地に行った際に、最も頼りになったのは道路標識であり、道路標識をよく見ました。青森県独自の統一した標識を作ればよいのではないかと思います。

三つ目として、レンタカーのターミナル基地についてです。青森県では前進的な考え方を持っていて、新幹線の新青森駅についてターミナル基地のようなものを検討していると聞いていますが、大変結構なことであると思います。業者が個々に行うのは、観光客にとって非常に不便であると考えます。新幹線の新青森駅のレンタカーが、一つの建物ですべてできることは、利用者が不安にならずに良いのではないかと考えます。

この3つが、短期的に新幹線対策として必要なことだと考えます。

長期的な視点としては、京都など観光地では、それぞれの地域にイメージというものがありますが、青森県には果たしてイメージがあるのかということです。外国人にとっては、特にイメージというのがないのではないかと思います。これからは、おそらく東南アジアなどから外国人がたくさんやってくると思いますが、その時に青森県に対してどのようなイメージを持つかということが大切です。

ただ、日本の中で色を付けている県はない。最近、県が「青い森」というキャッチフレーズを使用していますが、イメージ作りのために非常に良いことだと思います。これを、将来、より強いものにするために、防風雪柵をグリーンベルトにするべきだと思います。地吹雪を防ぐ鉄製の防風雪柵については、確かに効率的で大変便利なものであると思いますが、

世界に青森県のイメージを伝えるため、鉄骨製のものではなく、全部ではなくても世界に誇れるようなグリーンベルトを作るべきではないかと思います。

これは、環境対策、地吹雪対策、景観対策、イメージづくりにもなり、トータルとして遺産として残るのではないかと考えます。

#### 知事

大切なご指摘をいただきました。

マップについてお話がありましたが、確かに他県の人を作ると、県内の人が見過ごすところなども出てくると思います。



レンタカーの仕組みについても良いご提言いただいたと思います。

グリーンベルトについては、雪が解けないなどの問題が一つにはありますし、それ以外にも様々な問題があります。

県民局長から専門家としての話をしてもらい

ます。

#### 西北地域県民局長

まず、標識についてですが、従来から不備、不足については指摘されているところであり、工夫をしてきているところです。ただ、道路の標識は国土交通省共通の決まりごとに則っているところであり、観光情報などを入れすぎると見にくくなるということもあります。それ以外に個別の看板を立てたりしていますが、表示がバラバラであり足りない部分もあり、また、全くその土地を知らない人の目線での見方も大切であり、新幹線開業や国体などの節目、節目に見直しなどしているところです。

防風林、防雪林についてですが、今の補助制度だと鉄骨製の防雪柵でよいということになり、わざわざ防雪林をとということであれば県で独自にとということになります。また、植林してもすぐに育たないため、木を植えるとともに鉄骨製の防雪柵も必要になり、土地の買収なども含めると膨大な予算が必要になります。岩木山を望む、ゆったりとした空間という意味では良い意見ではないかと思いますが、少し県の財政が豊かになったら検討する余地があるのではと思います。

#### 五所川原市長

田んぼの中に防雪林を作ると、所有者から文句が来るという側面もあります。

## 知事所感

今日は、貴重な時間をいただき、ありがとうございました。

この2時間、和気あいあいとしながらも、鋭い意見やなるほどというアイデアをいただいた次第です。

私たちが、地域を作っていくということは、県とか市とか関係なく、皆で一緒にやっていくということだと思います。

皆様方から、一緒に何かやろうというエネルギーを出していただきながら、そのエネルギーが、共に、青森を、津軽を、五所川原を元気にしていく方向に向かうということだと思っています。

「じゃわめいでさっぱど」するような地域おこしをしていきたいと思います。今日はありがとうございました。